

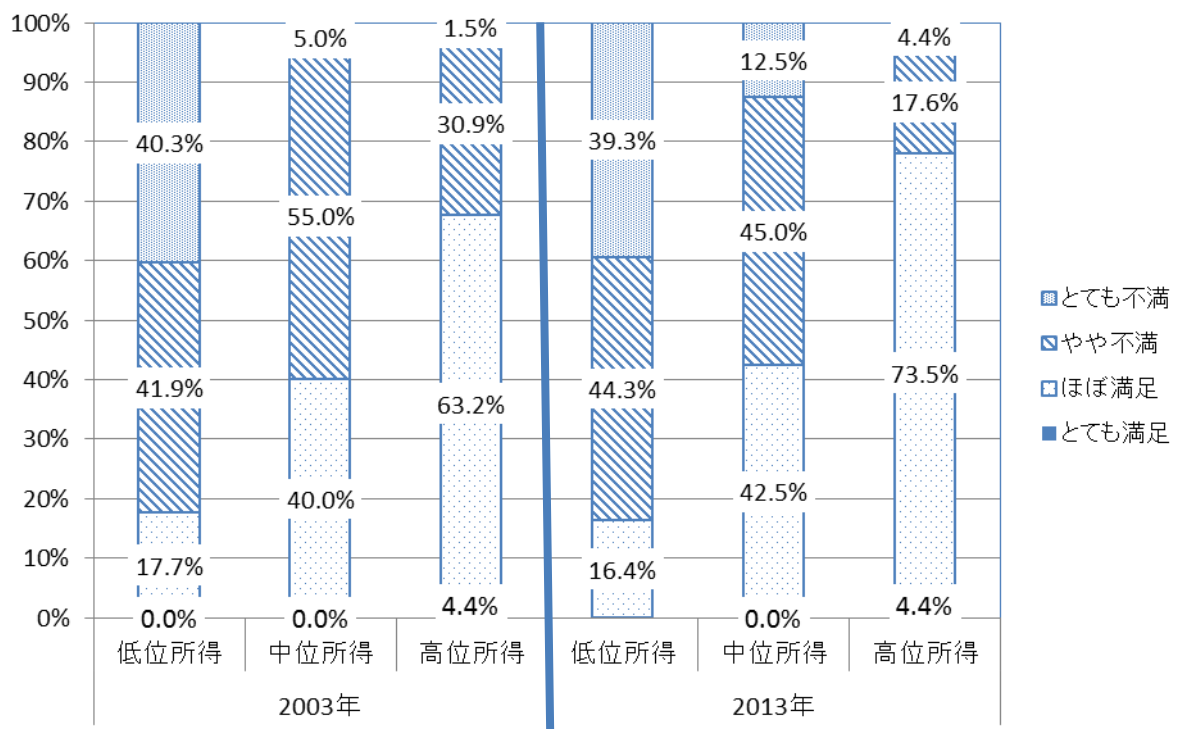
2. 所得階層と意識

(1) 所得階層別の意識の変化

1. で用いた夫婦合算の所得を5つの階層に分け、2003年と2013年で所得階層（所得の相対的位置）が同一である世帯に着目し、世帯収入に対する妻の満足度の変化を調べた。ここでは、低い方から1番目の所得階層である低位、3番目の階層である中位、5番目の階層である高位の所得層にそれぞれ位置していた世帯について提示する。

2003年と2013年のどちらの時点でも、全体的には、所得の高い層ほど満足している割合は大きい。時点間の変化をみると、高位の所得層では、「どちらかといえば満足」している割合が、63.2%から73.5%へ10%ポイントほど伸びている点特徴的である。一方で、低位の所得層では、「どちらかといえば満足」と回答している割合はいずれも2割弱である。「不満」および「どちらかといえば不満」と回答している割合は約8割であり、回答の構成比はほとんど変化していない。

図表 2-1 所得階層別にみた所得の満足度(2003年と2013年・同一階層継続の世帯)



※該当世帯数 低位所得：62、中位所得：40、高位所得：68

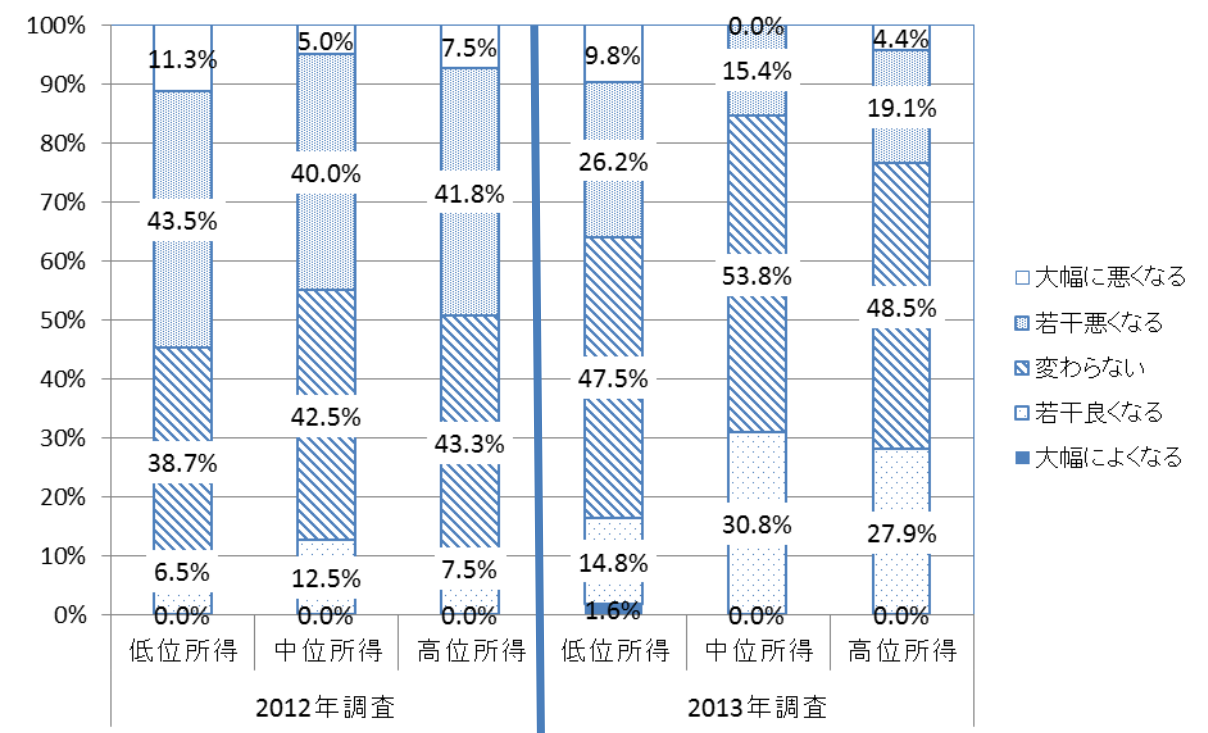
(2) 所得階層と景気の見通し

第2次安倍内閣発足以来、様々な経済政策が実施され、景気に対する見通しの動向が社会的な関心を集めている。では、景気の見通しは所得階層（所得の相対的位置）によってどの程度異なっているだろうか。そこで、「日本の景気は今後、良くなると思いますか」という質問に対する回答を、2012年調査と2013年調査で比較してみた（図表2-2）。それぞれ10月時点の評価である。対象は（1）と同一で、2003年と2013年で同じ所得層に位置していた世帯を低位、中位、高位の3つのグループに分けている。

2012年調査と2013年調査を比較すると、どの所得階層でも「若干良くなる」と回答している人の割合が増加している。所得階層別にみると、2012年調査では、高位の所得層と低位の所得層では約6～7%で、ほぼ同程度であったが、2013年では高位の所得層で27.9%、低位の所得層では14.8%と、高位の所得層の方で景気の見通しを明るく感じ始めている割合が大きい。

ただし、2013年においても、いずれの所得階層でも半数近くが「変わらない」と回答していることに留意する必要がある。

図表2-2 所得階層別にみた翌年の日本の景気の見通し
(2012年と2013年・同一階層継続の世帯)



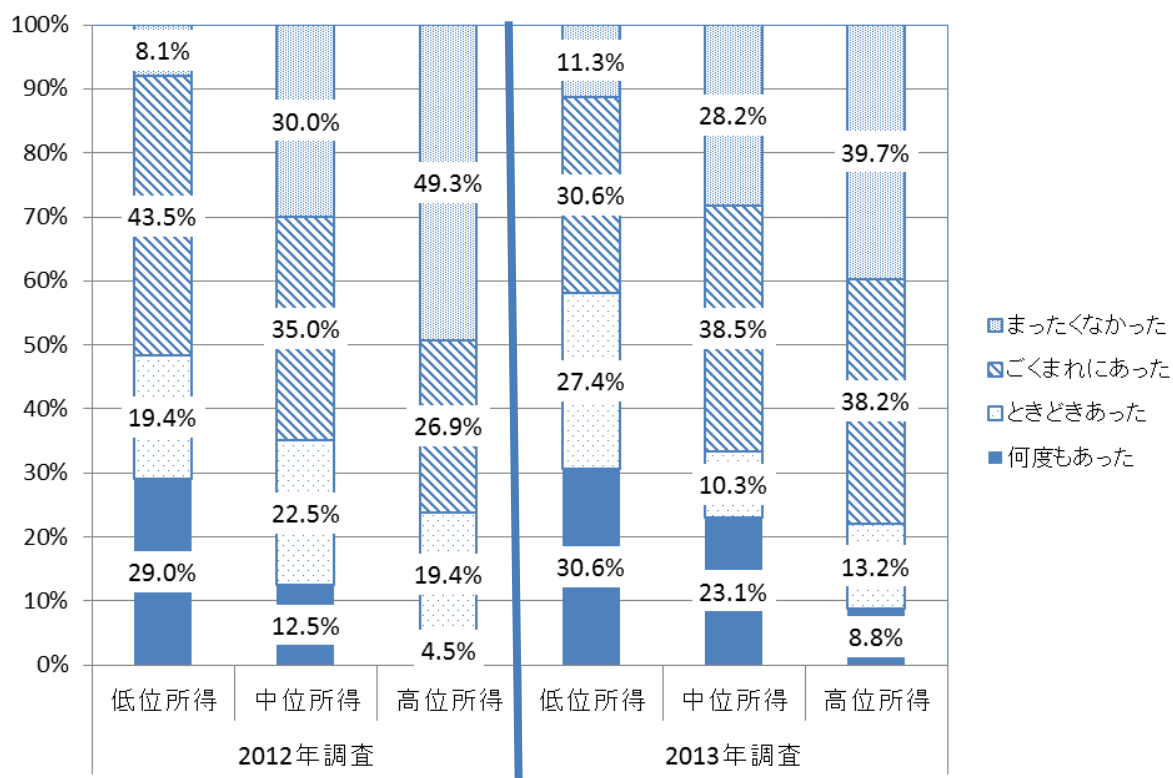
※該当世帯数 低位所得：62、中位所得：40、高位所得：68

(3) 所得階層と家計の先行き不安

この調査では日本全体の景気見通しに加えて、個々の家計レベルでの先行き不安についても尋ねている。図表 2-3 に示すのは、「この 1 ヶ月ほどの間に家計の先行きに不安を感じたことがどのくらいあるか」に対する 2012 年と 2013 年 10 月時点での回答である。

2013 年の結果をみると、家計の先行きに不安が「まったくなかった」と回答した割合は低位の所得層で 11.3%であるのに対し、高位の所得層で 39.7%と、両者の間には大きな開きがある。しかし、高位の所得層においても、家計不安が「何度もあった」と「ときどきあった」を合わせると、およそ 2 割にのぼっている。

図表 2-3 所得階層別にみた家計不安 (2012 年と 2013 年・同一階層継続の世帯)



※該当世帯数 低位所得：62、中位所得：40、高位所得：68